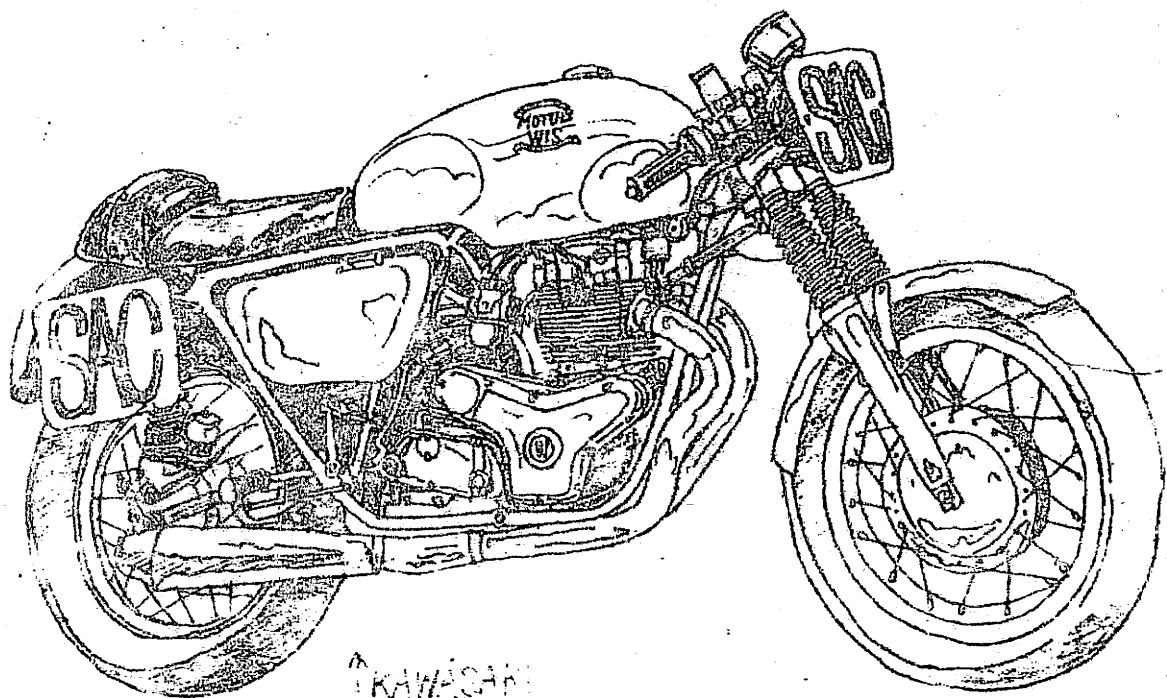


1986 SAC

GW合宿

&  
春山

報告書



KAWASAKI

by J. Kobayashi

信州大学山岳会

# INDEX

## I 春山 個人山行

P1 ~ 2

1. 高妻山
2. 白馬岳入キ
3. 城ヶ崎海岸

## II. ハッ岳 合宿

P3 ~ 9

1. 2. 入山日 縦走
3. 赤岳南峰リニ左後  
赤岳 ショルター 左  
阿蘇陀北後  
ショルター 石  
縦走

3. 赤岳 ショルター 左  
石尊後  
ショウゴ 沢  
大同心後
5. ショウゴ 沢
6. 紀行文

## III 春山 縦走合宿

P10 ~ 15

1. 中央アルプス  
(紀行文)

2. 南アルプス  
(紀行文)

## IV. GW 合宿

P16 ~ 24

1. 入山日
2. 不帰山峰 A尾根  
" B尾根  
" C尾根  
不帰山峰 セタリシ  
" 甲南ルシ

3. 向子 A尾根  
B尾根
4. 共遊
5. 雪割 → ヒルゲ
6. 縦走  
不帰山峰 山後
7. 紀行文
8. 感想

# I. 春山個人山行

## 1. 高妻山

△ 下田, 中村, 豊田, 飛田

3/11 11:50 戸隠牧場発

◎ 12:10 尾根取付

12:50 T.S

3/12 8:40 T.S 発

⊗ 9:05 牧場

天候が悪く 戸隠が見えず残念だった。  
雪洞を掘って寝た(テント=2人) 雪面からの  
冷えがきつかった。

(豊田)

## 2. 白馬岳スキー

3/11 11:00 榎の森ゲレンデ

◎→⊗ 12:30 成城大ロッヂ

風が出てくる

2:00 天狗原

ガスと雪でホワイトアウトで  
T.Sに決定

3/12 6:00 T.S.

① 7:00 テホ。(スキー設置)

11:00 小蓮華山頂 風あり

1:30 テホ地。

スキーで下降

3:00 榎の森ゲレンデ

荷物があると極端にスキーが難しくなって大変。

### 3. 城ヶ崎海岸

カバ- カトヤ. E1. 3E9. M1. ヤ24. トビ9. オ1. トヨ9.  
カムラ. カムラ. セガワ. ナガサキ(森土の森土)

3/31 伊豆高原の森土の別荘へ集合

4/1 ファミリークラブエリアへ

2イラック. 2サー. ファー. 7ラサー. 池田117  
P. 111. テルト11.

各自好きなコートでTop 2-7まで登る.

私鉄沿線97分署の24まで登る

オ1が帰る

4/2 シーサイドエリア

ウットハッカー 総合4+7までTop 2-7まで行く.  
合計277ショット, オ1が帰る

Top 2-7まで

トビ9帰る

4/3 ファミリークラブエリア

2サー. 7ラサー. ファー

各自好きなTop 2-7まで

9分 他エリアへ見物

(中村ユ)

## II. ハケ岳合宿.

### 1. 2/20. 入山日

10:55 ○ 美濃戸口.

11:55 ○ 美濃戸山荘

みんなで足をつらせながら, 3P歩く。

16:00 ◎ 行者小屋.

### 2. 2/21. 縦走.

6:20 ○ BC 飛.

7:30 ) 雪訓.

8:35 )

9:15 ○ 赤岳、中岳のコル.

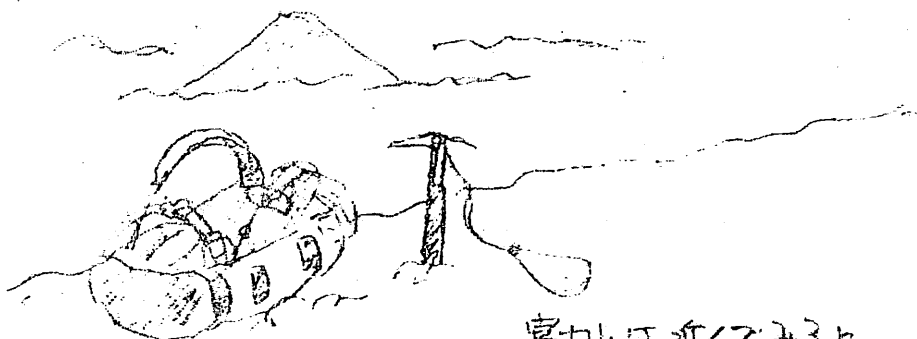
10:55 ○ 赤岳石室.

13:45 ○ 硫黄岳石室.

15:20 ○ 赤岳鉱泉.

16:00 ○ BC 着.

※ 天気が良くて最高の縦走を楽しめて、Lucky  
だった。硫黄岳下の小雪崩は、不気味な感  
触がなんとも云えなかった。しかし、アイゼン技術  
が未熟で苦労しました。(中村)



富士山は近くてみると  
やっぱりでかいせ!!

3. 2月22日.

2/22 赤岳南峰リッジ左稜

L. 古賀, 下田, 中村(9)

W.... ①

7:00 ① T.S. 発

7:40 ① 文三郎

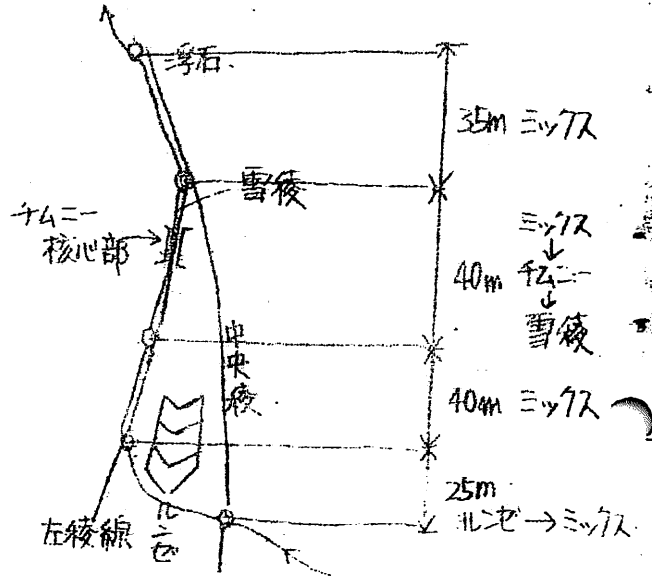
8:40 ① 取付

↓ 4P

11:50 ① 終了点

2:00 ① 角谷隊と合流

3:00 ① T.S. 着



\* 全体を通じ、それほど難くない。3P目のチムニー状を抜ける所が核心と思われる。日が当たらないので、なかなか寒い。(中村)

2/22 赤岳西壁 シルター左リッジ

L. 角谷, 三野, 豊田

① 7:00 B.C 発

8:00 アセソ着用

8:45 取付

1:40 終了 ) 4P

2:00 岩室

2:50 B.C 着

寒かった。アセソがまだ熱でよかった。

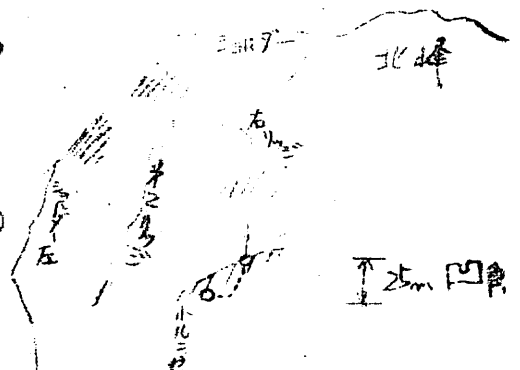
(豊田)

2/22 アミダ北稜 L.水谷.中村(幸)  
L.加藤.小野

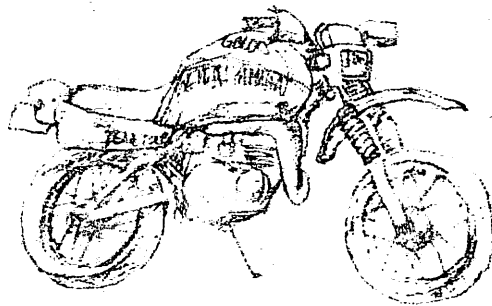
① 7:10 T.S → 8:10 第2岩峰 → 9:00 第2岩峰を登れない  
ので巻くことにする. → 10:20 アミダ山頂 → 11:00 T.S  
核心らしい核心がなく. 登はんとしては ほぼいっただた(小野)

2/22 (土) D1P-テ. ショルダ-右リッジ L.森 飛

BC	7:00	①
取付	8:45	
撤退開始	9:30	
文三郎取付	10:20	
赤岳頂上	11:30	○
C1P-テ-合流	13:50	
BC	14:50	



右リッジと赤岳頂上間のルンゼから  
取付. 瓦が森がIPリッジの後  
撤退. 赤岳沢E下降し.  
文三郎を登り. 赤岳で他のIP-テ-  
を得た. 日が当たらず寒く. 瓦.  
利雪崩がこわからた  
(14:9)



アミダ山頂 7:47-11-  
14:10

作 by 利紙交換.

2月22日

行程) 縦走

Member) △藤田 守田

- 5:15 起床 ①
- 7:10 BC発 ①
- 8:50 赤岳山頂小屋 ①
- 11:25 硫黄石室 ○ 風が強いので少しばかりで休み
- 12:55 赤岩尾根上部より50m下下所 ○  
ここで40分ほど雪訓(スリコフ, ヒールストロップ)
- 14:00 赤岳鉱泉小屋 ○  
どらばれで暑い。また春山!!
- 14:45 BC着

・ 縦線には風が強い。うしろをかぶって、晴天に耐えられる。履物  
 多く、春は足が暖かかった。  
 (安田)

3.2/23 赤岳三ツルギ一左

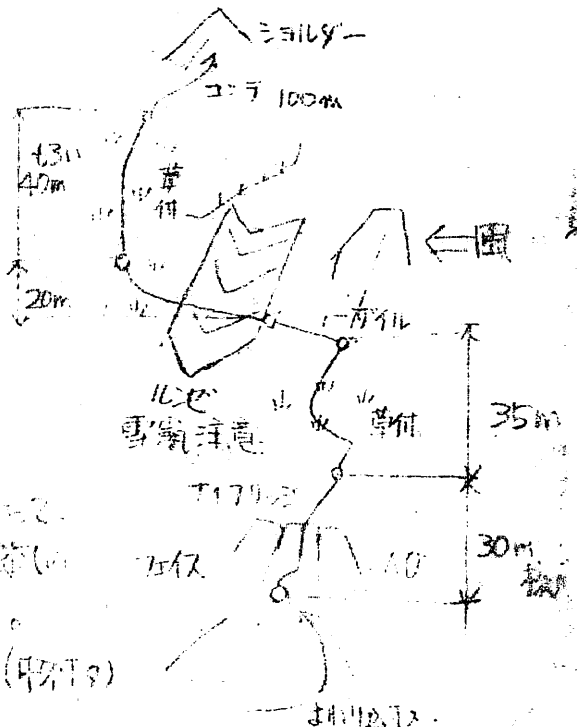
△水谷 中村(9)

W... ①

- 6.50 ① T.S発
- 7.50 ① 取り付き
- ↓ 4P
- 10.00 ① 終了点

以後 石尊接尾一と合流  
BCA

※ 1Pが 核中部。寒くて、AO3ツルギ  
 ととと取付点。2P 終りて踏  
 為、隣の尾根に逃げて来た。  
 左後に負付中 安田が寒い。(中村)





2/23 石尊綾 L. 角谷, 小野

- ◎ 6:50 T.S → 7:40 取付 サイル3P. 他コテ → 10:55 終了
- ① 10:40 赤岳石室. 水谷. 中村(費)パーティと合流し下山  
→ 12:10 T.S

取付で時間をくった(順番まち)ので寒かったが、1ピョ4目の岩へきは大変おもしろかったのと、陽のあたる綾線へ抜けたときは気持ちよかった(小野)

2月23日

行程(3日の予定)

Members LA 教習所 安田

- 5:15 起床 ○
- 7:00 BC 登 ○
- 7:40 3つの工床 5m の滝 ○

練習が2つ少し遊ぶ。

8:15 15m の滝

TOP 森 安田 古賀

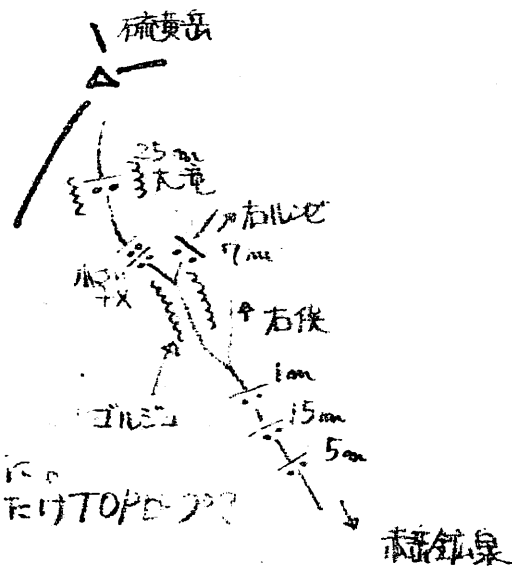
傾斜がたかく亦体は登り下。

その後右心セ 7m の滝を安田だけTOPにアツ登る。

10:20 25m 大滝 TOP 森で行下失敗。森を右からまわしてTOPにアツ古賀. 安田 登る。

12:25 硫黄岳 山頂で 旭藤パーティと合流。風が強い。

14:10 BC 着 楽しいアツクワイミツでアツ。(安田)



53. Fパーティ 大同心稜 L. カウ. シモダ. ナカムラ (2)

- 6:58 ① BC 発 赤岳 鉱泉を通過。  
7:42 支尾根 谷から大同心稜  
8:18 樹林帯を抜けた所  
9:00 ① 大同心の基部。大同心を大同心ルンゼの方からまく。  
3P ガイルを通過 陽が当らず寒い。  
後は なるくなった尾根を登るとすぐに  
稜線に出る。

硫黄岳へのコル付近で、中村のアイゼンのネジがとれ、  
ツェルトを被ぶってなおす。風が強い。

- 12:00 頃 硫黄岳の小屋  
12:40 ① Eパーティと合流し、小屋を出る。  
13:20 赤岳 鉱泉  
14:10 BC着

\* 大同心稜は小同心へのアプローチにもなるので人は多い。  
(中村コ)

5. 2/24 ショウゴ沢 本谷

L. 本谷, パーティ全員

- ① 7:40 BC 発  
① 8:30 ) ショウゴ沢 F<sub>1</sub> (5m)  
① 10:30 ) F<sub>2</sub> (15m)  
10:50 中山乗越  
11:20 B.C着  
13:00 B.C発  
① 14:15 美濃戸山荘  
① 15:15 美濃戸口

F<sub>1</sub>はとてまぬいた。水は不安定で、しかり、くい  
こませなければならぬので、はいへんだった。

(豊田)

## 6. 紀行文

八ヶ岳の思い出

飛田泰彦

その日、行者小屋のBCは、1175mのように寒かった。やはり寒いと  
体が思うように動かない。しかし、空は、これから1175m  
の山頂に晴れている。全員の体操の後、それぞれの  
パーティーごとに出でいく。僕達のパーティーは、取付くまで  
船パーティーと一緒だった。1P半ほどはラッセルの後、パーティー  
毎に分かれる。これから1175mとすると、ニールダ-石リッジと溝の狭  
いリッジの間。ルニセの日、リッジの雪崩がふきでいて、どうなるかな感じ  
急な斜面を横切り、ルニセを登り、取付く。森さんがTOPで  
僕が確保する。午前中面壁は、日が射さないで、非常に寒い。ヒ  
ヒヒと寒気が浸みこんでくるようだ。ザイルが半分程くらって、かなりな  
伸びがある。森さんの登は、向う側川ルニセなので全然見えな。不安  
に感じてきた。すると「飛田、降りるわ。」との声。ある部分を  
越えるのが非常に難しいとのこと。残念ながら撤退するとの声。P  
しかし、赤岳沢と下降し、日が当たる所に出でてきて、何れも  
ほっとした気分になった。

### ジョウゴ沢のアイスクライミング

今回の八ヶ岳合宿で私は初めてアイスクライミングを体験おとす  
できました。これは今までの私の知らなかった、2本のバイルとアゼンタ  
1本で垂直な氷を登る。山頂から見ればクレイジーな世界でした。しかし  
太陽の光をうけ、青く輝く氷柱は、それだけで私の心を魅了し  
てくれました。そして岩とほくらへ物にはならないから、不安定な  
氷を相手にし、氷の弱点をつき、さいてはるのかわかれば、アイス  
ハンカチを打ちこみ、バイルを振り回すから登る。さういって、スリルに満ち  
た素晴らしい世界です。干界では、お春めには、アイスクライミング  
の季節はとくに終ってはいない。私の脳裏にはあの青く輝く氷の

事が残すといくはあはれせん。新年の冬こそは、何本かのルートにチャレンジ  
 してみたいと思、ています。しかしアイスクライミングをやるとなると、新しい  
 クライミングギアがほしくなるのが人の常。カニツのセミチューブもほしい、  
 MIZO バイルも見のたまひい。アゼンも新しいのがほしい、リードをす  
 るとなると、スタークヤ、スクリューガンもほしい。しかし金はない……  
 世の中 ほかほかうまくいけたいと悩んでいる今日このごろです。

記) 安田至宏

Ⅲ. 縦走合宿

1. 中央アルプス 縦走合宿

Member) La 角谷, 三野, 中村(9), 飛田

記録) 3月3日(月) ① → ②

桂小場 → IP → 4リ×ニ坂 → IP → 白川分岐  
 10=20                      10=50                      12=00  
 → 大ケル小屋 TS  
 IP                      13=30

・ヒールズが深い。出た時は雪の深さが5センチ程度の白川分岐付近より  
 深くなる。エが7センチ、下が9センチの中間地点の雪に感あつた  
 2の日は大ケル小屋内は7センチを越え、泊まり(12時)

3月4日(火) ① → ②

大ケル小屋 → 2P → 胸付, 頭 → 2P → 杉屋, 胸の二匹  
 9=15                      9=30  
 樽駒頂上 → 2P → 2010. 15. TS  
 12=00                      14=10  
 /0

・大タレ小屋から胸付・頭までは7カ所。それ以後は、4日目前越自まではアセニエ  
 っから。この日は天気よく、ツルギのあかる宝剣の下山は、クサリが出ていた  
 のでこれにばかり注意しておりた。特に恐れは3日はなかった。

・3月5日(水) ① → ②

T.S → 檜尾・2708峰のJIL → 木曾殿越  
 6=45                      7=50                      10=30

・出発時は、晴れていたが次第に天候悪化、吹雪になってはた  
 予定を変更し、木曾殿越、冬期小屋内にテントを張る。冬期小屋は半  
 以上、雪で埋もれていた。あまりアセニエのない行程であるが  
 天気のせいか、非常に長く感じられた。この日、腹面に凍傷を  
 作ってほれた者もいた

(飛田)

続く。

### 紀行文

中了..... 稜線に出ると風もなく、行く手には、木曾駒が望まれた。  
 アセニエにはまかえた。我々4人は、歩きつづけた。ぬけるような青  
 空からの陽を受けながら我々は進んだ。霧の日の間山はすかす  
 がしかった。駒ヶ岳を越え、中岳をまくらねりた。ニヒヤな斜面に  
 出くす。続く宝剣の峰を越える。翌日は、つてみかれて風が  
 吹き雪は降り出した。熊沢岳を過ぎるころには、悪寒の為、視界  
 も定かたなくなってきた。俺も飛田も、アセニエをせめていたので、  
 惨めもいいたころで、俺も飛田も、アセニエをせめていたので、  
 人の降り口を探している時が、一番ひどかった。山越えの降り口を掘り  
 おして、ぼとぼとどろで、飛田の顔にヘルメットがはたいて、気が  
 した。そして稜線、西側には、霧が降りてきた。この日は、  
 天気も悪く、残りの山は、熊沢小屋以南で、人、雪を格ナし  
 な山は無事、(1) 山を越え、(2) のとした。(中村)

(中ア 続き)

3月6日 (木)

○ 晴 ①

木曾殿越 → 空木岳 → 南駒ヶ岳 → 仙漣嶺  
 6=55 1P 8=05 1P 9=30 1P 10=50

→ 南越百 → 与田川乗越 T.S  
 1P 12=10 2P 14=50

↑ → = 丸利ワカニ

\* 雪2Pは伊那側 121~2m

・ 昨日と違い、風のない穏やかな日だった。長〜空木の登りと、仙漣嶺付近の通過がポイント。特に仙漣嶺付近は、木曾側を登って登ったが、岩後のトラスが怖かった。2P、3Pに注意。南越百を過ぎてからは、ツツシが多く、おまけに雪が振って、非常に歩きにくい。

3月7日 (金)

○

T.S → 烏帽子岳直下 → 崩壊箇所と過ぎ下所  
 6=50 2P 9=20 2P 11=50

→ 林道出口 → 上片桐駅  
 2P 15=00 16=20

・ 前日同様な中ア特有な雪、膝下までのフカセル。そのうちツツシの雪に変わる。烏帽子岳付近は岩後地帯、1849峰過、崩壊箇所付近の通過に骨を折る。小川郎岳を過ぎてから、下リ口を間違え片桐松川方面へ道なき道を「くはぬ」な。仕事道がかなり入り組んであるので注意。とにかく、完走できたうれしかった。

(トビタ)

2.

## 南アルプス縦走合宿

Member ▲森 木谷 瀬川 豊田 中村(2) 小野 安田

3月16日.

前日の夜 甲府駅まで電車できて、駅で7-11に泊る。

5:40 甲府駅発(タクシー) ○

森さんが駅でそばがーミフちゃんを盗みおちこでいる。

7:05 夜叉神バスターミナル

8:05 夜叉神峠 ○ 峠の小屋から木陰に若いネちゃんが現れ  
みんがビョウ!

10:00 2050m ○

13:50 南御室小屋 T.S

・先行ハーターが11時におりラッセルを1時間ほど林間にはま  
りまくる所があった。

3月17日

4:45 起床 高層雪は止まっている。

6:15 T.S 発 ○

9:00 観音堂山頂 ○ 風が強い。

12:00 高嶺 2178m ○

13:00 白鳳峠 ○

13:55 赤笹沢の頭 ○ 登りのラッセルがきつい。所々膝以上ある。

15:00 広河原峠 T.S

雪が少なくて汗設定に苦労した。

・前日に続き、雲一つない晴天。稜線では風が強いが、展望は  
気分よし。こゝが春山だ。

3月18日

5:00 起床

6:00 T.S 巻 ○

7:00 早川小屋 ◎ 手前で少しまと。

11:05 アサヨ峰 ◎

13:15 仙水峠 T.S ○

風が強く、晴天のため、シツツとほし、みんじくづく。

- ・3日間晴天が続く、あとは、甲斐駒ヒストンを残すのみとなり、ハーター全員の間に身勝ムードがたたまっていた。このように悪天候の中、いたいたいたこの後の地獄のような氷殿を予想してあろうか。

3月19日

4:00 起床

5:00 停滞。風が強く、山頂ではホワホワ外、吹雪

11:15 今日一日氷殿決定。甲斐駒ヒストンだけを残す

その後雪がスズメに変わり、テントの中はゴシヨビシヨ。

- ・最悪である。

3月20日

4:15 起床 吹雪

5:30 停滞。

12:00 氷殿決定

仙水峠上空は時々晴れ間がみられるが、やはり風が強く、雲が上空をものすごい速さでながされていく。

- ・2日前仙水峠に着いた時、あまりに天候がよくなったので、つい油断して風と垂直の方向にテントをたてたため、強風を引きこらした。しかしこの“HOSONO”の冬はすばらしく強い!!



3月21日

4:15 起床

5:45 T.S 茶 ⊙

6:30 駒津峰 ⊙

8:00 甲斐駒頂上 ⊙ 展望がよい。

9:20 仙水峠 T.S テントを撤収して下山の準備をする。

10:20 北沢峠 ①

12:10 丹波山荘 ⊙ 木がうまい! T-くさんの登山者にはあう。

14:30 戸台

ここからタクシー2台で伊那北駅へ。

・甲斐駒ピストンが成功できて本当によかった。新2年生の技術力、体力、判断力がたもつれた山行だった。みんな満足の中結果が得られたようだ。

(安田)

南アルプス縦走合宿

豊田 浩太郎

甲府でステーションビルパークを、早朝タクシーで夜叉神山荘まで入る。富士山がでかく見えた。天気は晴れた。みんな薄着だ。1Pで夜叉峠についた。峠から北岳、間岳、農島岳が見え、ねーとまがいた。林間を頭を働かせながら登る。案に登ろうと考えていたわけではなく、これから2年部員になるにあたり、考えなければならぬことを考えていた。どこかの先行パーティーがいたが追いつき、テントを張っていると、先へ行ってしまった。好天がつづき3日目には仙水峠についた。余中上部がかたく、下部がやわらかい雪上をう。セルするのはたいへんだった。4日目、5日目は悪天のため丸殿となった。強風に合いながらも横向のテントはつぶれず、摩利支天の下部を見ている間にみんなのウェアは黒い模様がついた。6日目にやっと晴れ、駒ヶ岳ピストンになる。B.C.を出て重かった足もだんたん軽くなり、摩利支天を經由して、B.C.におりてきた。

IV. GW 合宿

1. 4/29 7:40 二俣 → 9:30 B.C 小倉池 天気 ☉  
 10:45 B.C → 11:40 鷹松沢 1450m 付近にて雪割  
 (キックスタート、ピッケルスタート、グリセード) → 3:30 B.C

2. 4/30 A1P-ティ L 角谷、小野 不帰3峰 A 尾根

① 5:15 B.C → 4P → 9:00 取付 → 4P → 12:00 P<sub>2</sub> 下で雪バキ  
 にははま丸 35m のけん垂でビルンセに下降  
 → 2:00 鷹松・不帰のジョル → 4:50 B.C  
 ・取付 1P 目が 4C-1 の人工が やっかいたった。抜けられな  
 かったのが残念だった。(小野)

不帰3峰 B 尾根 マバー L 森、豊田、瀬川

5:15.0 B.C 終

6:05 不帰沢出合

7:05: 1.2 峰間  
 ルンセ

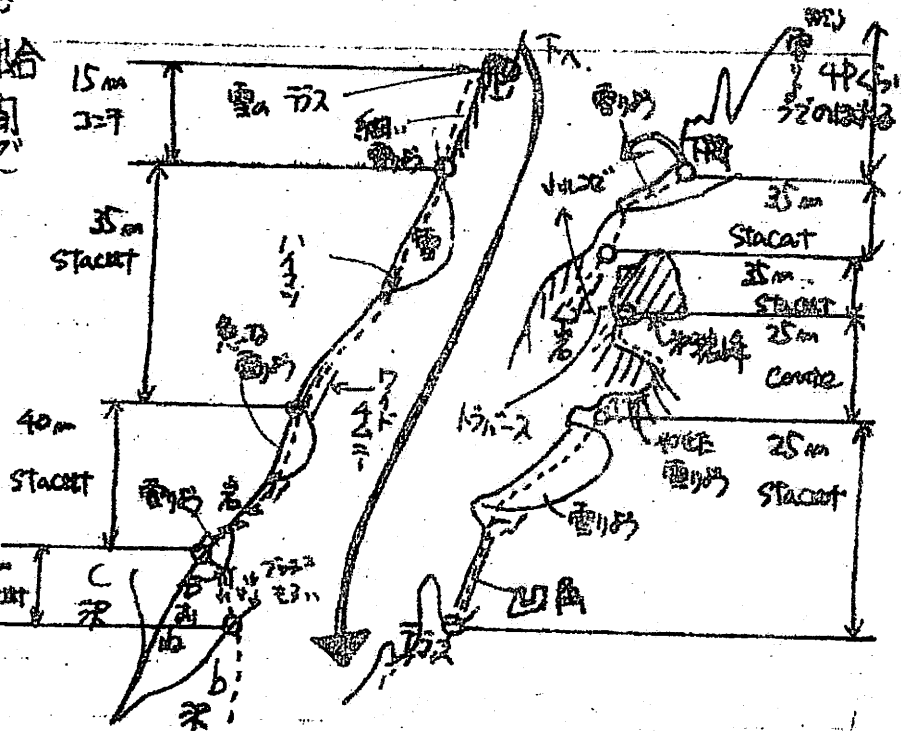
9:30 取り付き  
 開始

2:00 断念  
 コンテで

C 沢におり  
 登る

3:00 綾線

5:00 B.C



4/30

(1) 不備三峰 (尾端 L 加 7 三) 十力 6 2.  
 一十回 登山大系之覽 2 下 1.  
 5:10 ① BC 登 取得 手 持 2 人 體 察 之 結.  
 6:08 ① 不備 三 峰 之 北 山 之 取 本.  
 7:10 ① 不備 三 峰 之 北 山 之 取 本.  
 8:15 ① 取 本 之 取 本.  
 10:00 ① 取 本 之 取 本.  
 11:00 ① 取 本 之 取 本.  
 12:30 ① 取 本 之 取 本.  
 2:30 ① 取 本 之 取 本.  
 3:30 ① 取 本 之 取 本.  
 4:30 ① 取 本 之 取 本.

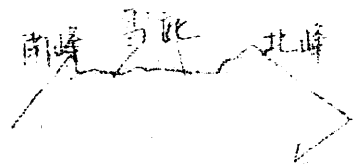
4/30

11:00 ① 取 本 之 取 本.  
 12:30 ① 取 本 之 取 本.

4/30

① 不備三峰 (尾端 L 加 7 三) 十力 6 2.  
 L 水 台 之 費 中 初 山

- 5:10 ① BC 登
- 6:08 ① 不備三峰之北山之取本
- 7:10 ① 不備三峰之北山之取本
- 8:15 ① 取本之取本
- 10:00 ① 取本之取本
- 11:00 ① 取本之取本
- 12:30 ① 取本之取本
- 2:30 ① 取本之取本
- 3:30 ① 取本之取本
- 4:30 ① 取本之取本



10m

100m



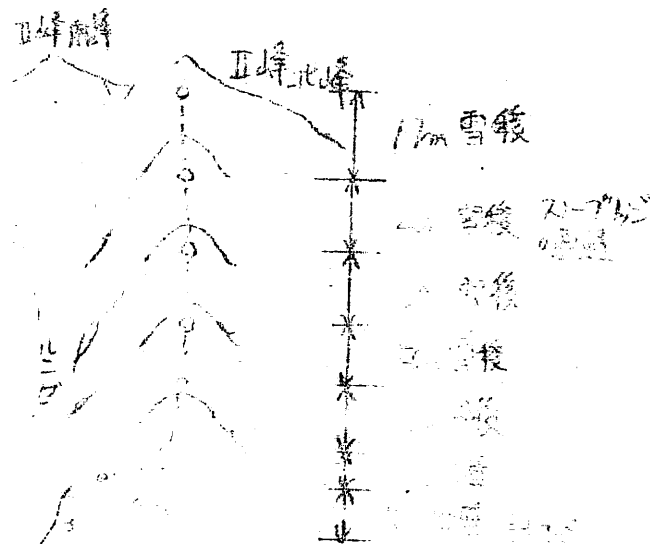
1971 年 4 月 30 日  
 不備三峰 (尾端 L 加 7 三) 十力 6 2.  
 一十回 登山大系之覽 2 下 1.  
 取得 手 持 2 人 體 察 之 結.  
 不備 三 峰 之 北 山 之 取 本.  
 不備 三 峰 之 北 山 之 取 本.  
 取 本 之 取 本.  
 取 本 之 取 本.  
 取 本 之 取 本.  
 取 本 之 取 本.  
 取 本 之 取 本.

1971 年 4 月 30 日

(水) 甲南L=ゼ〜II峰尾根上部

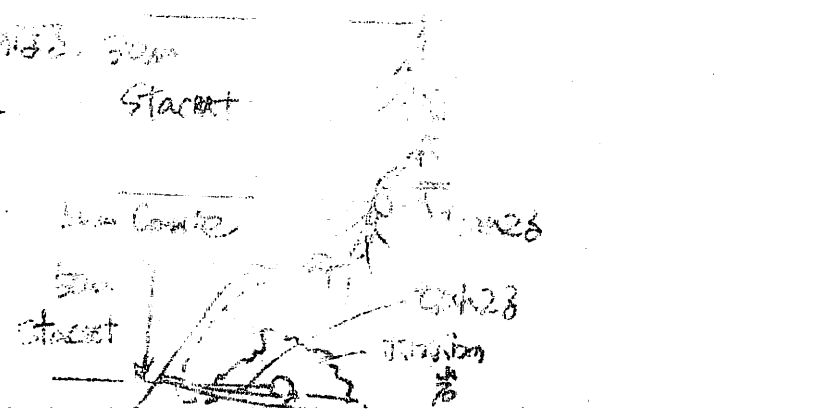
△ 田・安田 飛田

- |                |       |      |
|----------------|-------|------|
| BC             | 5=15  | )2P  |
| I・II峰間<br>にゼ出合 | 7=05  |      |
| 甲南L=ゼ取付        | 8=20  | )7PO |
| 甲南のユル          | 9=00  |      |
| 縦走路            | 15=15 |      |
| 甲南L=ゼ下降点       | 15=50 |      |
| BC             | 17=10 |      |



ツカツクの雪と、と=3と=3  
 きれなる場所あり、中野かた  
 甲南L=ゼは、滑りと、た、フ  
 崩落の注意、た、た、た、た、た  
 の雪面は、厚く、た、た、た、た、た

3. 杓子A地提 7/1  
 L. 船 豊田 瀬川  
 5:00 BC花田  
 6:00 下宿門後、社印、た、た、た、た、た  
 8:30 取付、た、た、た、た、た  
 10:30 山頂 [P29-20133] 30m  
 11:20 下山、た、た、た、た、た  
 11:20 終



5月1日

登攀ルート) 杓子岳東稜B尾根

Member) 山本 香 二野 守田

5:00 BC 登り ◎

5:55 六左門の滝の上 ◎

7:05 杓子沢1950m付近 ◎ 杓子全体の展望が素晴らしい

杓子沢を2か所B尾根に取り付く。ポトゲイルで80mlほど登り、  
50mlほどのポトゲイルを出し、TOP木谷まで登り、三角形岩峰  
下の岩50mほど登り、1か所この岩が折れて、TOP三野  
通關がまず水谷にのみ、にびり下りた。

8:00 A尾根 陸上の交点で下り決定

ポトゲイルで15m下り、それから尻尾トゲで下り

8:45 新故交点

13:30 山腹のバラバラと交信で事故の連絡が来た

14:15 水谷、下田と合流

15:30 此処着

事故とあるのは大抵、山腹に降り掛かると、即座に止まるが  
20m程度の急降がある、山腹に降り掛かると、山腹に降り掛かると、  
山腹に降り掛かると、山腹に降り掛かると、山腹に降り掛かると。

2/3 ● 源平山

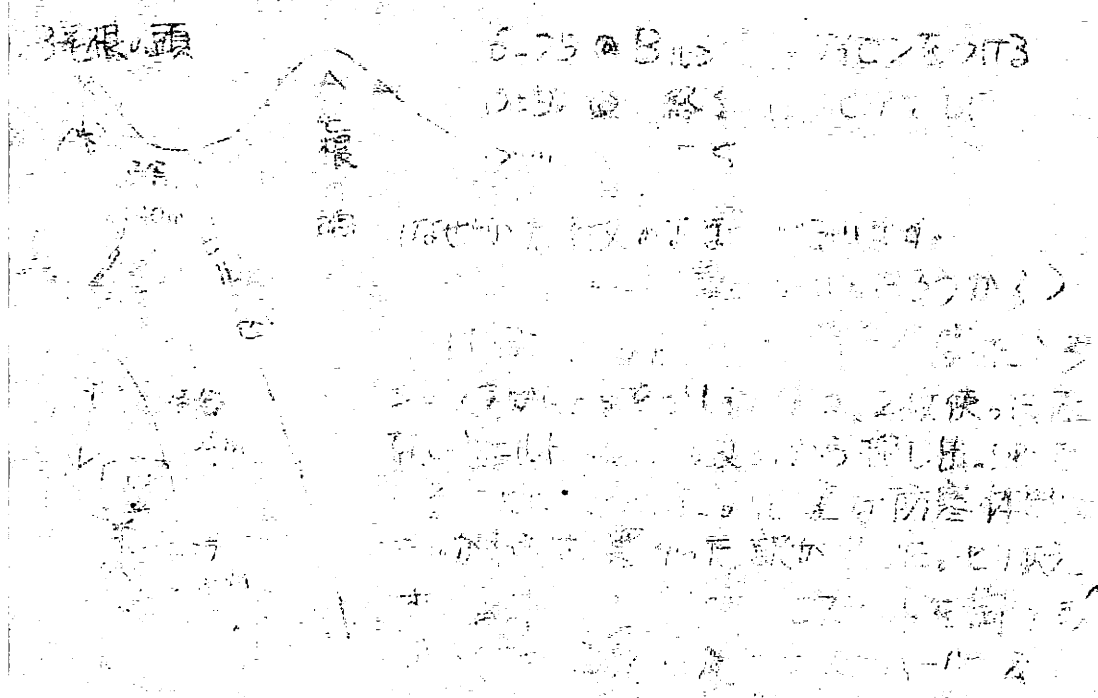
2/3 ◎ 9:00 8:30 一歩の懸崖下り直が急調

9:00 7:00 二つめのア、クイセ十:500と、  
7:30 8:30 → 8:45 山腹に  
山腹に降り掛かると、山腹に降り掛かると、山腹に降り掛かると。

1/4 縦走 八ヶ岳 L. 森 加藤 瀧川 飛田 小野 豊田 中村等  
 中村(後)

◎ 5:15 B.P. → 7:20 不帯札 → 9:00 追張鐘 → 10:40 湯掛子? 和◎  
 → 12:00 B.C. ①  
 B.C. にて 角谷 三野 八ヶ岳 → 合流 → C 撤収後下山  
 ① 2:30 小倉池 B.C. → 3:30 二保

尾根 不帯 峠 尾根 角谷



そこへハンガロンをしたおっちゃんが、変なルートから到着した。雪の中の細い木をだましながら登る。しばらくコンテを交えながら行くと、ボルトを数本打った岩があり、その左をまた角谷さんリードする。ゆっくりとしかザイルが出て行かないので、難しいのかなと思いつつも、後続パーティーが気になった。寒い確保も終わり、登りはじめるが、これが難しい。まるで人事のようにトップの苦勞に感謝しつつセカンドのいいかげんな登り方で先を急ぐ。ゴソゴソと登ると雪の中に赤いかりセイルをかぶったヤクザが座っていた。僕のセイルは20mぐらいでコンテになり、また岩が出てきた。うまい具合にまた角谷さんがトップだ。頑張り三ッちゃん！右に回りこんで見えなくなりザイルを出せ」という指令が届く。その後2、3回同じ言葉を聞き、「オーブン」として「登っていいよ。」突然マジな岩登りが、5mくらい出てきたが、コンテセカンドの安心感で何とかクリアする。またゴソゴソ登り、スノーリッジのヤクザをかわすと登山道に到着。

リレンゼの乗越しまで行くと、丸く大きな目とスラブひげ、そして谷村新司のような額……。中原京OB、たに社長に聞きいかなかった。社長は、いつもの様にボツツと話す。山での例のあり変たりのあいまつをかわして尻制動をはじめ、すくすく下着に到着。安田くんに入れてくれるお茶を飲み、また降りはじめた。

(記 三野)

# 紀行文

## 下関系 東郷 尾根

山の恐ろしさ、自分の無防犯に気づかされた。その結果として、前日からの身体重さが気になり、取り扱った、体が重く、加圧シヤに切り替えたと考えていた。前日の甲南心せと山、雪質の不安定が三野さんには「安田、どうして感じたのか？」と不吉なことをい言っていた。今の三野さんの予想が的中(?)したのかどうかはせんが、私だけセーフミスって3人で雪崩道へ。おちた瞬間、ヤバイと感じ、ヒョウケルシヤの体制に切り替わった。ヒョウケルが飛びついてほしい、雪と岩のミックスの雪崩道の中、アイスクライムのスローダウンを上回るスピードで落ちた。そればかり、雪面が見えなくて、ヒョウケルをくり抜け、ヒョウケルシヤ。止まった時は生きている自分の不思議な。本当に星が落ちたのかと思ってる。

今回の事故で私の痛感(死)は、事故、なら絶対に避けようがないと気づかされた。あらかじめたら、それは死にたがります。今回の場合は止まると必死に岩にたどりついたりして、おバカでもたな努力で終ってほしいけれど、よりシヤな場面では、このあらかじめというところが本当に必要になります。

この事故で部員のみならず大変迷惑をかけてしまいました。しかし私としては、自分体験できた多くのことを学びました。この教訓を次回の山行に生かす。来年のG.W.合宿では尾根を完璧にしたいと思っています。

記) 安田至宏



## 8. 反省 感想

リーダー部員どうしのコミュニケーションが、うまく行かず、毎日のリーダー会が、次の日の登攀の計画に集中してしまっただけ。また、4年生の判断ミスで事故をおこしてしまい、大変申し訳ない。

(L. 角谷)

山登りは危険な遊びだと思い始めた反面、増々山登りが面白くなってきた。

権筒取ヘルニアのため、早め下山してしまっただけが残念である。

もっとスピーディーに登れるよう努力したい。

どんな小さな事故でも起こしてはいけない。

(下田)

5月の雪山雪稜が、大体どのようなものであるか判った気がするが、GW合宿の連日のかなりハードな行動予定（長いアプローチ、限られた登攀時間、安定した雪を得るためのスピーディーさなど）を満足にこなすだけの気力、体力を出しきれず、4年生に迷惑をかけてしまったのが残念。余裕をもって行動できる力と判断力など総合的な面をもっと高めていかなければいけないと感じた。

(瀧川)

山岳会に入って1年間の最後の合宿が終了。この合宿に入る前は、バテたりしない様に、体力養成をしようと思ったが、結局一度も走らず合宿に臨み、バテ気味になり、途中から風邪をひいてしまい、所々で皆に迷惑をかけてしまったのは残念だが、登攀が出来なかったかわりに雪割が出来て良かった。

(豊田)

この合宿は、今まで学んできた技術の総復習とともに、雪綾登攀という新しいことを学んだ。内容的に、雪訓、登攀、縦走とバランスがとれていて、また雪訓に結構力を入れ、雪上技術の再確認ができて、満足のものだった。ただ、体力的に楽な合宿の割に、ぐいぐい引張っていかず、かなり、他の人に頼っていた感いだ。もっと自覚をもって臨めば、違っていたのではないかと、今度新しく新人生を迎えての新人合宿があるが、1年生への指示、指導を積極的にを行い、会の中心として働けるように努力したい。(飛田)

GWで1衝情になかったのは、体カ面での質の低さよりも、精神面でのそれでした。意識的にトレーニングをしたつもりだったが、積極性を欠いたため、実山行でも悪影響をもたらしてしまっただけで、当然体カ面も充分でないのだから、少し気合いを入れて、必要以上の体カの余裕をもって山行を送れるようになりたい。

全体を通して弱い2年部員の実体をさらけ出してしまったので、新人合宿では、おそい所を現わにしないよう努力したい。(中村)

今回の合宿では、自分の不注意により、事故をおこし、部員の皆さんに迷惑をかけてしまい、本当に申し訳ありません。これからの合宿にむけて、体カ・技術をみかま、2度と事故をおこさないよう、努めたいと思います。(安田)

1年生としての合宿は、これが最後だったので、積極的に参加しようと思ったが、たいして頑張りなかつた。雪綾の登はん技術は難しくすべてを吸収できなかった。とにかく痛切に感じたのは、もっと根柢づけないといかんなということでした。(小野)

編集部より、

原稿がたくさんあり、思わぬもんせつした。ファックスは便利ですが、きたない原稿には、困りもの。皆さん気を付けましょう。それから、原稿の横幅いっぱい書くのをやめてください。タイトルや、No.をやる作業に苦心することになります。慣れない作業で手間がかかった時には、あまり良い出来映えではあるせんか、お許し下さい。

次の編集責任者の方、頑張って下さい。ほくは、いんまします。

(編集責任者 折り紙交換手  
こと中村貴士)



昭和61年度

信州大学山岳会・SAC

GW.春山合宿報告書

昭和61年6月6日発行

発行 松本部会

[〒390 松本市旭3-1-1]